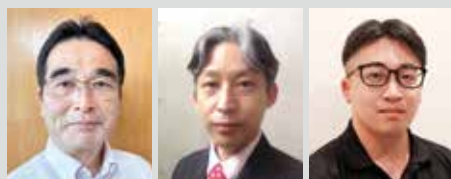


商業高校における「観光ビジネス」の効果検証と高大連携の取り組み



埼玉県立大宮中央高等学校副校長 藤森 雅彦
ものづくり大学教授 田尻 要
ものづくり大学大学院 竹原 正勝

1. はじめに

高等学校指導要領の改訂により、高等学校商業科において科目「観光ビジネス」が新設され、全国の商業高校等で開講されている。しかしながら、担当教員の専門性のマッチングが必ずしも高くなく、指導方法や地域連携を進める際の体制の整備など、課題の解決が今後に期待されているところである。また、実際に商業高校等の生徒が「観光ビジネス」を受講した際の学びの影響や効果についても、今後の検証が必要であると考えられる。

このような背景のなかで、本稿では岩槻商業高校（埼玉県さいたま市岩槻区）において、科目「観光ビジネス」の開講に関する授業の運営を整理するとともに、受講した生徒の科目「観光ビジネス」に関する意識や意向などの変化について調査・分析を試みた。

なお、今回の取り組みは、岩槻商業高校と高大連携協定を締結しているパートナー「ものづくり大学」（埼玉県行田市）が共同で進めている。ものづくり大学は実学を重視したカリキュラムにより産業界からの評価も高く、工学系のみならず幅広い分野への就職実績もあり、商業高校である本校との連携も期待が大きい。

2. 2024 年度「観光ビジネス」の授業概要

岩槻商業高校における 2024 年度の科目「観光ビジネス」は、3 年生の情報処理科 13 名と商業科 10 名の 2 学科 2 クラス計 23 名で実施された。科目と授業の概要を図 1 に示す。科目担当の教員に実施したヒアリングでは、授業で課題に感じた点について、時間配分と成績に関する評価方法が

挙げられている。生徒の定量評価のみならず、定性評価の手法や基準を整理する必要があると考えられる。また、科目担当の教員は科目「観光ビジネス」の趣旨に則り、効果的な授業の展開を目指していたことが伺えるとともに、新規科目ということもあり生徒の理解を優先的に試行するなど、積極的な取り組みも見受けられる。

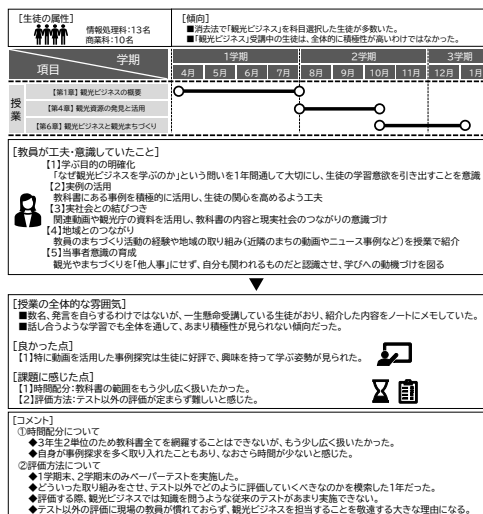


図 1 2024 年度における「観光ビジネス」概要

3. 調査概要

「観光ビジネス」の科目が受講した生徒に与える影響を評価するために調査を実施した。3 年生の 3 学期は自宅研修期間であるため授業が開講されていないことから、1・2 学期のみの調査である。科目の受講前後の影響をはかるためにパネル調査としたため記名式であるが、回答は完全に任意で、回答内容は守秘されかつ成績には一切影響がないことを事前に周知したうえで調査を実施している。これらの条件で、受講生徒のうち 14 名がパネル対象となった。

4. 調査結果

(1) 受講前の期待度と受講後の満足度

科目「観光ビジネス」の受講前後の変化を図2に示す。期待度と満足度は、1学期から2学期へと授業の進行にともなって向上している。科目「観光ビジネス」を消去法で選択した生徒が多いという教員の声にあったように、当初の期待度は必ずしも高くないが、授業により学びが深まったことで満足度が向上したと考えられる。

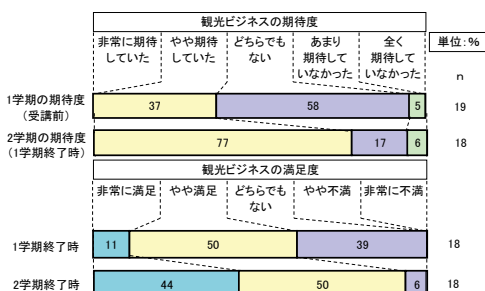


図2 受講前の期待度と受講後の満足度

(2) 受講後の到達度

本稿では、科目「観光ビジネス」の趣旨に則り、授業で到達すべき指標として、【A】「観光ビジネス」に関する専門用語や理論の理解、【B】「観光ビジネス」を通じた地域への理解、の2点を定義した。

受講後の授業の到達度を図3に表す。指標【A】では、1学期の「理解していない」から「理解している」に変化し、指標【B】では、「理解できる」から「深く理解できる」に変化している。このように1学期終了時と比較して2学期終了時は、指標【A】、指標【B】とも向上しており、「観光ビジネス」に関する専門用語や理論および地域への理解が進んだと推察される。

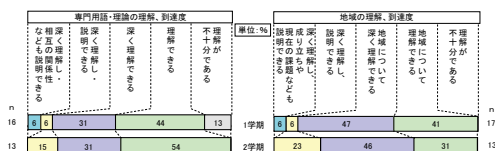


図3 「観光ビジネス」受講後の到達度

5. 回答生徒のパネル分析

(1) 回答生徒の期待度と満足度の変化

回答生徒の科目「観光ビジネス」に対する期待度と満足度を表1に示す。1学期の受講前の期待度は、「どちらでもない」という回答生徒が多いが、1学期終了時の授業満足度は「やや満足」の回答生徒が多い。その後、2学期の受講前の期待度も「やや期待している」の回答生徒が多くなり、2学期終了時の授業満足度は「やや満足」に加えて「非常に満足」の回答生徒も多い。このように多くの回答生徒が、1～2学期を通して「観光ビジネス」の学びが深められていったことが伺える。

生徒	授業到達度					
	専門用語・理論の理解			地域の理解		
	1学期	2学期	1⇒2学期比較	1学期	2学期	1⇒2学期比較
生徒A	○	○	STAY	○	○	STAY
生徒B	×	△	UP	△	○	UP
生徒C	△	△	STAY	△	△	STAY
生徒D	☆	△	DOWN	☆	△	DOWN
生徒E	◎	◎	STAY	○	◎	UP
生徒F (回答なし)	◎	◎	—	(回答なし)	◎	—
生徒G	○	(回答なし)	—	○	(回答なし)	—
生徒H	△	○	UP	△	○	UP
生徒I	△	△	STAY	△	○	UP
生徒J	△	○	UP	△	○	UP
生徒K	△	—	—	○	—	—
生徒L	×	△	UP	△	○	UP
生徒M	△	△	STAY	△	△	STAY
生徒N	○	(回答なし)	—	○	(回答なし)	—

表1 回答生徒の期待度と満足度の変化

(2) 受講後の到達度の変化

4. (2) で示した科目「観光ビジネス」で到達すべき指標として、【A】「観光ビジネス」に関する専門用語や理論の理解、【B】「観光ビジネス」を通じた地域への理解、に着目した到達度の変化を表2に示す。指標【A】では、1学期および2学期とも「理解した」「STAY」の回答生徒が多いことから、大きな変化を見だしにくい。いっぽう指標【B】では、「理解した」「深く理解した」に加えて「UP」の回答生徒が多いことから、「観光ビジネス」の授業を通して地域への理解が深まったと考えられる。

期待度	非常に期待している	やや期待している	どちらでもない	あまり期待していない	全く期待していない	
満足度	非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	
記号	◎	○	□	△	×	
生徒	授業到達度					
	授業前の期待度			授業満足度		
	1学期	2学期	1⇒2学期 比較	1学期	2学期	1⇒2学期 比較
生徒A	○	○	STAY	□	○	UP
生徒B	□	○	UP	□	○	UP
生徒C	○	○	STAY	○	◎	UP
生徒D	□	○	UP	○	◎	UP
生徒E	□	○	UP	○	◎	UP
生徒F	○	○	UP	○	○	STAY
生徒G	○	○	STAY	◎	○	DOWN
生徒H	□	□	STAY	○	○	STAY
生徒I	□	○	UP	○	◎	UP
生徒J	○	○	STAY	○	◎	UP
生徒K	□	□	STAY	□	○	UP
生徒L	□	○	UP	○	○	STAY
生徒M	□	○	UP	◎	◎	STAY
生徒N	○	○	STAY	□	○	UP

表2 受講による授業到達度の変化

(3) 受講によって「身についた力」の変化

科目「観光ビジネス」を受講することで、回答生徒が「身についた」と感じる力を表3に示す。ほぼすべての回答生徒が、1学期と2学期を通して“地域や観光について考える力”“観光ビジネスの特徴理解”が身についたと感じている。また、1学期では地域や観光についての“知識理解”や“考える力”などの科目「観光ビジネス」に関する力が挙げられる傾向にあり、2学期になると“考えをまとめる力”や“人に伝える力”などの個人に帰属する汎用的な力が挙げられる傾向にある。これは科目「観光ビジネス」が、当該分野の理解を深めることに加えて、論理的に思考する能力やコミュニケーション能力も習得できる可能性もあることを示していると考えられる。

記号	1・2学期あり	2学期のみあり	1学期のみあり	1・2学期なし							
	◎	○	□	△							
身についた力 番号	1.地域や観光の知識理解 2.地域や観光について考える力 3.観光ビジネスの特徴理解 4.個人の考えをまとめる力 5.考えを人に伝える力		6.アイデアを出す力 7.事例やデータを活用する力 8.課題を解決する力 9.地域の良さを見つける力 10.強みを活かして地域や観光に貢献する力								
	受講によって身についた力										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	生徒A	◎	◎	○	△	△	○	○	△	◎	△
	生徒B	◎	○	○	○	△	○	○	○	◎	○
生徒C	◎	◎	◎	□	◎	△	◎	◎	◎	△	
生徒D	△	◎	◎	○	○	○	△	△	△	△	
生徒E	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	△	
生徒F	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
生徒G	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	△	
生徒H	◎	○	○	□	□	△	○	△	○	○	
生徒I	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	
生徒J	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	
生徒K	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
生徒L	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	
生徒M	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	
生徒N	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	

表3 受講によって身についた力

(4) 受講による意識・行動の変化

科目「観光ビジネス」の受講による回答生徒の意識・行動の変化を分析するために、表4に示す8項目の視点で分類した。

地域を知り、好きになった	地域貢献意欲が向上した
1.自分の住む地域や岩槻のことが好きになった 2.地域や観光の興味や関心が湧いた 3.観光ビジネスの奥深さに驚いた 4.地域の魅力を発見することができた	5.自分の住む地域や岩槻に貢献したいと思った 6.地域や岩槻のために何ができるか考えた
地域のことを自分から調べた	地域貢献への行動を開始した
7.地域や観光のことについて自分から調べた	8.地域や岩槻のための行動を始めた

表4 意識・行動変化のカテゴリライズ

図4に、2学期が終了した時点における回答生徒の意識・行動の変化を図示した。1学期が終了した時点では、行動の変化は見受けられないが、“地域のことを知り好きになった”回答生徒が多く、一部は“地域貢献意欲が向上した”“地域のことを自分から調べた”といった主体的な意識に変化したようすが伺える。さらに2学期が終了した時点では“地域に貢献したいと思った”などの意識の変化が回答生徒の全体に見受けられ、一部の回答生徒からは、行動の変化として“地域のことを自ら調べた”“地域貢献への行動を開始した”など、より主体的かつ積極的に行動したようすが伺える結果となった。

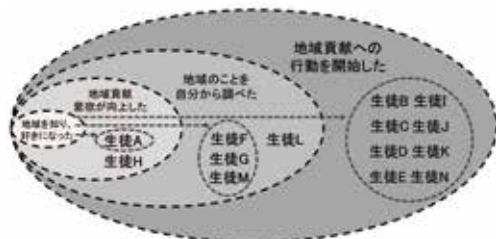


図4 受講による意識・行動の変化

6. 高大連携による「探究学習」の取り組み

(1) 岩槻地域の歴史的背景と現状

本校が所在する埼玉県さいたま市岩槻区は、旧岩槻市がさいたま市と合併した地域で、城下町の歴史を持つ県央の文化・経済の中心であるとともに、東京都心を結ぶ埼玉高速鉄道の延伸計画により将来性が期待されている地域でもある。いっぽうで、旧来からの祭りや地域イベントも多く集客性は高いものの、商店街のよりいっそうの活性化など課題も少なくない。

(2) 「観光ビジネス」受講生徒の探究学習

岩槻商業高校は高大連携協定のパートナーであるものづくり大学の田尻研究室と共同で、科目

「観光ビジネス」を通した探究の学習にも取り組んだ。田尻研究室は都市計画を専門としており、各地の自治体や商工会、企業などとの連携により、地域の課題解決に向けた実績を持っている。そこで、上述したような岩槻地域の課題を鑑みて、2024年度は「観光ビジネス」を受講した有志の生徒のべ10名と、ものづくり大学田尻研究室に所属する大学院生3名を中心に、①商店街の事業者を対象とした商業および地域課題に関するヒアリング調査、②地域イベントへの来訪者を対象としたイベント評価に関するアンケート調査、③地域住民を対象とした地域に関する意識調査、の3種の調査を実施した。

（3）調査の実施と報告会開催のようす

調査を実施するにあたり、岩槻区役所の担当課や商工会議所、まちづくりに関する市民団体など幅広い関係者に、あらかじめ調査の趣旨を説明し、深い理解と協力体制を整え、調査結果を共有することを約束した。また、生徒はフィールドワークの前に、田尻研究室の大学院生から、調査時の安全確保や心得のほかテクニックなど事前のレクチャーを受けた。このように十分な準備のもとで、田尻研究室の大学院生が同行しながら、積極的に調査に臨んでいる生徒のようすを図5に示す。調査を終えた生徒からは、実際にフィールドワークに取り組むことで「観光ビジネス」の学習の意義や内容の理解度が向上したなどの声が聞かれた。

また、調査の集計・分析結果について、地域の関係者と共有するために、一般の住民も交えた2回の報告会を開催した（図6参照）。



図5 生徒によるフィールドワークのようす



図6 生徒が発表した報告会のようす

報告会の参加者が感じた満足度と、その理由や感想を図7に示す。多くの参加者が満足しており、有意義な調査結果であることや、データの精度を向上させるために次年度以降も継続した調査の要望、分析結果をまちづくりに活用してほしいという意見など、取り組みに対する高い評価と今後の期待が寄せられた。

報告会の満足度					単位：％	n
とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満		
70	25	5				20

評価	コメント内容
【非常に満足】	生徒が地元とつながりを持ちながら、今後も調査を継続して行うことに期待。 岩槻にとって非常に有意義な調査内容と結果。学生の力で実現したことに感動。
【満足】	生徒さん達が頑張って調べてくれた成果の報告だったため。 高校生の生の声が聞けて良かった。
【どちらでもない】	話が多く、眠くなりやすかった。もっとこちらにも問いかけようにしてほしい。 住民の意見を色々見たのは良かった。
報告会の感想	若い人をターゲットにした意見の収集が必要と思った。 大学生と高校生と役割分担しながらやってよかった。 大変だとは思いますが今後も期待。 住民として、事業者として、岩槻をよりよくしていきたい気持ちが強くなった。 区内と区外の人からポジティブ、ネガティブな意見を聞き、自分でもそう感じるものが多くあった。自分に出来ることを考えてみたい。

図7 報告会参加者の意見や要望

7. 総括と今後の展開

科目「観光ビジネス」の学習を通して、生徒は地域に関する積極的な理解とともに、地域に貢献する意欲や行動まで深まるという知見が得られた。また、新設科目であることから、教育の効果を向上させるために継続的な検証が必要であることが、あらためて認識できた。加えて探究の学習では、フィールドワークのような実社会での経験値を高めることで、授業で得られた知識を実務に展開できる能力の醸成に有効である可能性が伺えた。

【謝辞】埼玉県さいたま市岩槻区のまちづくりに関係する行政機関や多くの団体のみなさまのご理解ご協力に厚く御礼申し上げます。